

はじめに

この報告書は、平成12年度から取り組みを始めたプロジェクト研究「盲・聾・養護学校における新学習指導要領のもとでの教育活動に関する実際研究 - 自立活動を中心に - 」において行った、全国の盲・聾・養護学校における自立活動への取り組みの実態に関する調査の結果をまとめたものである。

平成14年度から完全学校週5日制の下、特色ある教育活動を展開し、一人一人の子どもたちに「生きる力」を育成することを基本的なねらいとした新しい学習指導要領が実施されることとなった。今回の盲・聾・養護学校の新しい幼稚部教育要領、学習指導要領の改訂の主なポイントの一つに、「養護・訓練」の名称を「自立活動」に変更することがあった。これは、児童生徒の自立を目指した主体的な活動を一層推進する観点から、名称を改めたものである。さらに、今回の新学習指導要領によって、個々の児童生徒の障害の程度や発達段階等の適切な把握に基づき、個別の指導計画を作成することとされた。各学校では、その趣旨を踏まえ、個別の指導計画の充実を図ることになっており、自立活動以外の各教科や領域等についても、一人一人の障害の状態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るため、児童生徒等の障害の状況を踏まえながら個別の指導計画の充実に努めることが言われている。

これらの改訂を受けて、各学校では、新たな取り組みや、これまでの取り組みを新たな観点から整理して、一層効果があがるように充実化が目指されている。このプロジェクト研究においては、特に、障害の重度・重複化への対応に着目し、これまでの「養護・訓練」における指導で積み上げられた蓄積を生かしつつ、指導計画に基づいたさらにより広い観点からの創意工夫ある指導のあり方を、具体的に探っていくことを重視している。この観点から盲・聾・養護学校における「自立活動」の取り組み並びに重度・重複障害者に関する諸課題を明らかにするとともに、自立活動に関する教育課程の編成や具体的な教育の内容について実際に検討し、学校における実践を踏まえて、盲・聾・養護学校の教師が幼児・児童・生徒個々に対応した創意工夫に満ちた特色あ

る教育活動に取り組めるような方途を明らかにしたいと考えている。

今回の調査は、自立活動の指導に関する教育現場の状況についての実態を明らかにすることを目的としている。各学校における自立活動に関する教育課程上の取り扱い、学校の組織（指導体制）、専門性のある教員の育成・配置等、現状を調査し、実情を把握することとした。

かつての「養護・訓練」の指導の実態についても、今回の「自立活動」の指導の実態についても、全国すべての盲・聾・養護学校を包括的に調査したものはきわめて少なく、今回の調査結果は特殊教育の現状の一端を示す貴重なものと考えている。特に、近年、障害の重度化・多様化が言われており、このことへの対応が重要性を増しているが、この点についても、現状を明確に示す資料は必ずしも多くはなかった。特に、重複障害児の実態を教育課程や組織的取り組みの観点から浮き彫りにしたものはなく、これら重複障害への取り組みの現状を指し示す意味でも、今回の調査結果は重要な資料になるものと考ええる。研究最終年度にあたる平成15年度には、最終報告をする予定である。そこでは、「自立活動」についての基本的考え方についての考究と研究協力機関における実践経過についての報告に加えて、本調査のうち自由記述による回答についての分析結果を盛り込みたいと考えている。

この調査報告書が盲・聾・養護学校他、関係機関において十分に活用され、相互の情報交換や連携、協力が図られる契機となり、幼児・児童・生徒個々に対応した創意工夫に満ちた特色ある教育活動の展開の一助となれば幸いである。

調査を実施するにあたり、ご多忙中にもかかわらず多大なご協力をいただいた、全国の盲学校、聾学校、養護学校の関係者に深く感謝申し上げる次第である。

平成15年3月

重複障害教育研究部長

後 上 鐵 夫